

令和5年度第三者評価 改善状況報告書

令和6年5月31日

施設名	港区立精神障害者支援センター	施設所管課	保健福祉支援部障害者福祉課
所在地	港区高輪1-4-8	指定管理者	港福・大星グループ（社会福祉法人港福会・大星ビル管理株式会社）

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和6年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和6年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
<p>【就労支援B型】 積極的に利用者を受け入れ、サービスの質の向上を図るとともに、さらなる地域の就労継続支援事業拡大を期待する。</p>	-	<p>事業を開始した令和3年度末の在籍者数は17人であったが、自主事業のコーヒーのドリップパック制作、販売について、地域への広報、理解普及活動として自主製品の販売会等の実施積極的に取り組むことで認知度を上げていくことができた。また、受託事業として、館内日常清掃、麻布地区の花壇管理、港区有料ゴミ処理券販売、電線剥離作業など事業を拡大し、契約者は、令和5年度内に26名から29名へ増加した。</p>	<p>地域の事業所として、港区と協議しながら事業実施地域の連携、拡大を図るとともに、工賃アップの実施や、祭礼等の地域イベントに積極的に参加するなどにより、仕事の場として自己肯定感の向上や、社会復帰の一つのステップとして多様な段階の利用者が参加し、その人の力に応じた関わり方やステップアップができる活動を提供していく。</p>	<p>令和3年度に契約者3名でスタートした本事業の利用者数は順調に伸び続け、特にコーヒーのドリップパックについては販路拡大に積極的に取り組み認知度が向上するという成功事例があるため、今後も創意工夫を凝らした販路拡大や、積極的な受託事業の受注に取り組み、利用者の満足度や就労環境がより向上するよう支援する。</p>
<p>【短期入所】 利用者のニーズに応じるため、行政と連携し、短期入所事業のハード面の向上を図り、利用者により適切なサービスの展開に期待する。</p>	-	<p>運営に当たっては宿直制度を取り入れ、同性介助を徹底しているが、利用者が集中する月における宿直者の割り当てが困難になることから、法人内の他事業所「みなと工房」の職員に宿直業務を依頼し、運営の安定化と利用者への適切な支援に努めた。</p>	<p>法人内の他事業所からの宿直業務依頼を継続するとともに、過去の利用者アンケートから、短期入所利用時に他の利用者が不在であることを希望するという意見を踏まえ、より多くの精神障害者のニーズに応えるため、現在の2室ある居室の独立性を確保する工事を港区とともに検討している。</p>	<p>精神障害者の短期入所に対するニーズに対応するため、必要な改修工事を実施する場合は、区とともに積極的な連携と利用者への周知を支援する。</p>
<p>【地域活動支援センター】 利用者に理解しやすい伝え方で理解の促進を図り、より利用者により寄り添った支援を期待する。</p>	-	<p>日常生活の相談では、来所面接や電話相談を傾聴と共感、寄り添いの姿勢に努めて対応した。また、オープンスペースでは、毎日のミーティング開催時に利用者間の交流促進、安心して過ごせる居場所提供を目標に、利用者が共有しやすい話題の提供や面談の実施に努め、また、利用者に対する積極的な声掛けや見守りの実施にも努めた。 これまで毎年実施してきた利用者アンケートにおいても、職員対応や相談内容に満足と回答した件数は前年度比で24件増えた。</p>	<p>引き続き、傾聴と共感を中心に相談者が持つ真の困りごとについて一緒に考えることを目標に、面談による日常生活相談の実施や、利用者ニーズ、意向を汲み取りやすくなる講習会等のプログラム事業に積極的に参加する。 また、オープンスペースにおいて、利用者が安心して過ごせ、繋がりを感じられる居場所づくりや、利用者主体の自主活動をより積極的にサポートしていく。 それらの取組を踏まえ、利用者アンケートの満足度がさらに向上するよう努めていく。</p>	<p>地域活動支援センターは、利用者の誰もが安心して過ごせる場所であることについて、改めて職員の共通理解を図りつつ、研修などを通じ受容スキル向上の機会に積極的に取り組むとともに、利用者主体の自主活動の支援はもとより、利用者の困り感、悩み、意見などに対して、職員自らが利用者により積極的に関わり、寄り添った支援が展開されるよう指導する。</p>